

# 6.28・29学館実力解放総決起集会実行委への呼びかけ

('73 6.25)

II部明大×平連

全ての明治大学の学友諸君のとりわけII部の学友諸君のサークル員諸君の

昨年11.17教職員学ヒ値上げ説明会介入斗争を突破口として向い抜かれている学ヒ値上げ阻止斗争の過程で、「一部暴力学生」の攻撃とされているとの理由で、駒込地区学館・8号館・4号館がコンクリート封鎖された。しかしながらこれは、眞に学ヒ値上げ阻止斗争に対する明大当局の国家権力と一緒にした弾圧・圧殺活動であり、そして又、II部の学友諸君のサークル活動・クラス活動・自治会活動に対する分断・圧殺攻撃である。

'69年10月7日大學院徹底抗戦以来、ロックアウトされて来た学館は、多くの向う学友・クラス・サークル諸君により、'70 6.29, '71 6.29, 10.13~19と当局の度重なる封鎖攻撃に抗し、実力解放斗争を向い抜き、自ら清掃・修理・活動拠点とするなどして、連絡会議を通して、自主管理を発展していった。

しかししながら、現存コンクリートで封鎖されている学館を我々はどう扱え、そしてどう解放していくなければならないのかどうか? 確かに学館封鎖により、多くのII部サークルの部室・クラス活動・自治会活動の「場」が奪われている。10時までの授業、そして10時以降のロックアウトの内ご、II部の学友が集まり、討論し、サークル活動を行える場が、全て奪われている。学館封鎖は、II部学友に対する差別・分断・管理支配強化の一環でもあるのだ。

しかし、我々は学館解放を「場」の保障の問題としてのみは扱える事はできない。これも極めて大きな問題だが、そこにおける我々自身の「活動」の内実が問われるだろう。大学当局が何度も言ってきた「大学の社会的使命」に必要であり、合致するならば、学館は、授業において、職場において疎外されている学生・勤労学生に対して「福利厚生施設」「いこの場」として与えられ、それを反抗し、戦いを挑むならば、学生に対する管理支配徹底の「場」として直に鎮められるだろう。

このように、当局の学館封鎖攻撃の本質、大学の社会における「役割」を扱え、全ての学友諸君、クラス・サークル諸君が、6.28・29学館実力解放総決起集会に結集されん事を呼びかけます。

なお、この斗争に向け、相互討論・相互批判を通して、相互の一一致・相違点を明確化し、確認する内から、その一致点に立つ共同の向いとし、その共通確認の向いは、相互に保障、防衛し合うものと見え、更なる共斗への積み上げの第一歩にしたいと考えます。

多くのクラス・サークル・諸戦線が、自の活動・立場性を持て結集されん事を。

⑤実行会議提起 第1回 6月25日(月)午後、11号館学苑会室。第2回 6月27日(水)午後同所